	堀越涼 Ryo Horikoshi	東 琢磨 Takuma Azuma	池上 朋也 Tomoya Ikegami	大川原 絵理子 Eriko Okawara	オノマ リコ Riko Onoma	金光 佳奈 Kana Kanemitsu	久保 祐里砂 Yurisa Kubo	ササキ ユーイチ Yuichi Sasaki	左藤 玲朗 Reiro Sato
自己紹介／研究所への応募の動機❶	劇作、演出はがっつかないといけないけど、ドラマターグというのはお勉強していればいいらしいというので、ドラマターグに興味を持った。「青年団」のドラマターグをしている野村政之さんにお話を聞いたら、長島確という人がいると。調べたら「つくりかた研究所」というのをやると知って、応募したら取り敢えず面談はしてくれるというので、話を聞けるだけでもいいかなと思って応募しました。	つくりかた研究所は、お休み中です、修士論文提出の１週間前です。	スタッフとして入ったので、「すごい、これやりたい！」っていうのがあった訳ではない。公募で集まったメンバー達が、上手く活動できるようにケアをする立場だと思っていた。全然そんなことないって、かなり序盤で分かって。自分はここで何をしたらいいのか、という違和感がありました。	ダンスや仮面の活動と研究所の活動はあまり繋がってはいないですが、何度か研究所の中でワークショップはやりましたが、個人的には深く今の自身の仕事と関わっているとは感じていない。ダンスをつくっている。それ以外にもなにかつくりたい。	劇作家、趣向というユニットを主宰している。言葉遊びが好き。人間の名前を「自転車」にしたり、普段くっつかないものをくっつけたり。最近一緒にやってる衣装家や音響の人から影響され、来年くらいからは言葉を疑いながら書こうと思っている。	こんなのがあるよって確さんに言われて、面白そうって思って。確さんのやっていることが好きだった。こんな面白い人となんかできるなら何でもやるって。	ダンスをつくっている。それ以外にもなにかつくりたい。「アトレウス家の建て方」を読んで、そういう演劇のつくりかたが気になった。	主に演劇やダンスなどパフォーミングアーツの記録撮影や、印刷物の作成など、技術的な部分をカバーするスタッフしてます。それだけでは食べていけないので、日雇い労働などしてます。最近は福祉施設とかでも働いたりしてます。	なんか面白そうと思った。映画や演劇の「括り」に違和感があって、括りを取っ払う場所と思ってきた感じです。演劇をやりたいけど、劇場はヤダみたいなことってあると思う。僕はパフォーマンスをやって、美術の文脈に依っていったことがあるけど、必ず何かをやるのに何かに属さなきゃいけないのか、何にも属さないで何かやることはできないのか、そんな風に思っていました。
研究所への応募の動機❷	「めっちゃやりたい」みたいなことは今もないけど、「つくりかた研究所」には、すごい興味があります。			長島さんが「The World」というダンスとリサーチのプロジェクトを大橋可也さんらとやっていて、大橋さんと一緒にやっているひとなら面白い人だろうと。最初のステートメントとかは面白くなさそうと思っていました。確さんはしゃべってみたら面白い人でしたけど。	劇場外のパフォーマンスをやるものと思って。劇場の中での舞台と客席の関係。小劇場でやすし詰めになり、なんでこんな辛いことしてるのかという疑問。劇場外だと自分はどんなことができるのか。戯曲の可能性。		アートプロジェクト、アートマネジメントを教授からすすめられる。	創設者から電話をもらい、興味あったので、やりますと。以前、確さんのアトレウスゼミという研究会に参加していた。そのゼミでは「構造」について考えるものだった。「構造」への関心と、「構造」を「つくりかた」という言葉にアップデートしたことに関心があった。	あとは、アトレウスの学校に参加していて、その時に須藤さんの印象がすごく強くて「あ、須藤さんもいるんだ面白そう」と思った。
研究所への応募の動機❸					劇作家としての応募。古代ギリシャ語、募集要項にあった料理。ひっかかればいいなと思って応募。		街になにかをつくるという最初のコンセプトに関心があった。		漠然として応募した。研究所でやりたいことは特にないですね。研究室は作ったけれど手を付けられていなくて、追々手をつけていきますけど。
参加している研究室など	つくりかたの思想史研究室、事務局への口出し	事務局では、広報に関わる仕事をしていることになっています。実際の作業は、人に「いいんじゃない？」と言う仕事。	エスノドラマ研究室	環境音楽研究室	拠点リサーチ	つくりかたの思想史研究室、エスノドラマ研究室、テレビ研究室、うごきかた研究室に参加。つなぎかたの研究会を企画。アーカイブ業務もしています。	東京23区研究室、つくりかたの共有、事務局	さばきかた研究室、事務局＝報告会の司会＝何か仕事したかった。	うごきかた研究室
研究室などでの活動／考えていること	《つくりかたの思想史研究室》 アートのことを人に説明する時にどう説明したらいいのか判らないので、簡単に説明できるような本や方法を知りたい。 最初は判りやすい解説動画をつくろうと思ったが、人に説明する前に先ず自分が勉強した方がいいということになり、アートや文化の入門書のブックガイドをつくっている。 最終的な決定権は自分が持っていたい。でも、やりたい人がやりたいことを勝手にやるという仕切りにしたい。自分は不勉強なので、とにかく恥ずかしいことをどんどんやっていくような役回りなんだと思って、取り敢えず研究室を立ち上げた。 《事務局》	ものごとを考えはじめた過程とか経緯を、覚えていこう、と最初から思っていた。 アートプロジェクトって、過程が全部、本番の「ハッピー」に吸収されているように見える。そうじゃないことを、つくりかた研究所などで考えている。 世の中の組織は何かを排除することで上手くまわっている。そこになにか問題は感じるけど。既存のやり方ってすごい効率いい。 でもそれとは違うやりかたに、可能性とか意義があると思う。	《テレビ研究室》 テレビに関して誰かと何かを考えるために、つくった。 目的を立てないで、テーマを決めないで、「何かになるんじゃないか」だけだと誰かと一緒に考えるのって難しいなって思いました。複数人ですすめていくこと、人と一緒につくっていく時、自分はどういう風にそこにいて、関わっていくのかって、ずっと気になっている。その場その場で関わり方を変えているけど、これからどうなるのかなって思います。	《客者評判記読書会》 読みたかったんです。 読めたので、もう関心はあまりないです。 《事務局》 個別具体的に考えている問題というものがあるけれど、あまりそういう問題には関心がない。具体的なアクションはこの研究所でやる必然性はない。 具体的な何かに動き始めてしまったら面白く無い。研究所としては、何処にもむかない状態を維持したい。あるアーティストが舵を切っても、全体がその方向を向いてしまっては面白く無い。 アートプロジェクトとして面白いと思うのは、東京都の事業として隙間のことを考えることができるということだと思っているので。私はそういうひとたちを見ていたら楽しい。うだうだ考えるのが好きなんですよ。考えることができるのは、ここぐらいしかない。企業にはないでしょう？　あいつのプレゼンはド下手だけどなんか味があるなあとか考えている時間はない。声が大きくて説得力のあるプレゼンが絶対いいのだから。	ポリアモリーがおもしろい。 文化人類学、特殊な民族を調べていると思っていたけど、なにか新しく組み合わさってできたもの、現代民族っているんだな。 論文にすると取りこぼれてしまうもの、台詞じゃないと表せないことってある。文字にはできないものを、表すことができる方法を考えるって面白いと思った。 私が楽しければいいのと、実際に調査もしている深海さんが伝えたいものが伝わるように。 《人生ゲームになるまで》 ポリアモリーを展示でどう置くか。はじめは短い実演のつもりだった。関係性が変わることを活かして、原子記号みたいに遊んでいくのは？→人生ゲーム 《ポリアモリーでおもしろいこと》 固定を目指さない。流動的。ふつう、固定されたものを目指そうとしてしまう。結婚とか。大人になって知った、ずっと友達とかない、常に流動的という状態を実践しているのがポリアモリーの人たち。	《環境音楽研究室》 トイレってすごくプライベートな空間だけど、駅のホームや公園などパブリックなスペースに設置されたり、と思ったら家にあったり、面白い空間。そのトイレという環境と、音の関係って、贅沢に考えることが出来ると思った。 流水音ってすごいなって、いま思っているところ。 国広さんが音つくってくれたり、南さんが場所取りをしてくれたり、人に関わってもらえてすごく嬉しい。助かっている。	《つなぎかたの研究会》 企画が立ち上がる、作品ができる何かが生じる時、ばらばらにあるもの、人やものがつなげられている、つながりが生まれてる。ドラマトゥルクとかディレクターとかの職能を、どうやったら方法として抽出できるのか。こういうふうにつないでるんだ、おれもやってみよってできるか検証したい。いろんな分野でつなぎかたに秀でた人を呼んで、その人がふだん働いてる現場に行って、どういう振る舞い、言葉遣いをしてるのかというところから学び取る、盗み取ることをしたい。	《東京23区研究室》 アートプロジェクトと地域について考えた時に、固有名詞的なある地域との関係があるわけですけど、そうじゃなくて23区って大きくバーンと出して［…］見たいという動機があって作りました。 《進めていきたいこと、その方法はある？》 事務局をやっていると、スケジュールをたちゃんと立てろよとか思うことがある。でも、予定を立てずにやる抜け道も判っているつもりで、その抜け道を通りたい。研究所が「ちゃんとすること」をどこかで求めているなら、それとは違うもっと「ちゃんとしない」やり方、行き当たりばったりで、派手にやらずに。 《つくりかたの共有》 昨年、お互いに何も知らない時に、研究員たちのつくりかたを共有していこうと。他のつくりかたを知ることができるだけでなく、研究所の中に共通言語ができたり、そこから面白い脇道に逸れていけるのではないかと思って始めました。 《事務局》 予定を立てるのは大事、本当にいま考えているのは予定のこと。
わからないこと	何のためにつくりかた研究所があるのか分からない。何を目的としているのか、一番根っこの部分、どこを目指しているのか。チラシやサイトには書いてあるけど、それは本当なのか？っていうのがある。		テレビ研究室でインタビューをするまで、他の研究員のこと、わからなかった。みんなそれぞれ、違う感覚でやっている。 全然わからない感覚のこととかを聞く時って面白い。 気持ちとしてはわからないけど、わからないこといっぱいあるな、っていうことはわかった。	経理のことあまりわかっていません。佐藤くん頼みよ。		ないかも。	もっと他の研究員の素性が知りたい。	
もの申したいこと	（初年度の）確さんの仕切りが、僕はあまり気に食わなかった。リーダーシップを取るなら取ればいいし、参加者の自主性を活かすなら、（活かしてると思わせるような）ワークショップのような仕組みもあるのに、それも使わないで、ほったらかされているのか、縛り付けられているのかよく分からない気持ちの悪い状態だった。		つくるプロじゃない私がなにかをすることも実験。つくろうとすることで何かを考えることが大事。アーティストじゃなくても、その機会は持っていいはず。	あんまりひとに関心がないよね、みんな。組織として考えたら、もうちょっと相手に興味をもってくれたら色々進むんだけど。後みんな表現が下手だよね。みんなうまくなっちゃったら気持ち悪いけど。物事を進めるときに、思っていることを言ってくれたら潤滑というか、当たり前すぎるけど当たり前だよね。	つぎは首狩り族のエスノドラマやりたいけど、フィリピンに行く予算でるかな。 むずかしい。		いろんなことを決めていって、物事は進むと思うけど、研究所は決めるところから決めるから…いつ決るのかな？（笑）と思ったりもする。	いちばん自分がちゃんとやらなきゃと思ってることは、つくりかたを研究するって、プロセスが残っていかないと意味がない。残していけるように、残していくようにしていかなきゃと。「だれかのみたゆめ」は、はじめてのリリース、ある種の成果だけど、成果だけで何かが語られるプロジェクトではないから、そのときにプロセスをどう提示できるのか、すごい責任を感じてます。	大川原さんによく代弁してもらっています。
創設者へ	何のための企画なんでしょうか？		年末ですごく忙しいと思うけど、休んでもらいたい。お体にお気をつけて。	美味しい中華屋さんを教えてください。 聞きたいことあったら聞くもん。	普段の活動じゃないことができて有り難い。 でも、ここでぬくぬくとやりたいことをやっていていいのか。 研究者で居るのは簡単。確さんの野望はなんだろう。何かをつくる、人材を育ててどうしたいか。		ドラマトゥルクってどうやって食べていけるんですか？	整髪料を買ってるお店、前に教えてもらったけど忘れてしまったので聞きたいです。	元気ですか？　みたいな。
所長へ	仕切りとか、マネージメントが上手なようにみえるのですが、それはどうしたらそうなれるのでしょうか？		感謝の気持ちでいっぱいです。所長ってすごく大事なポジション。もうだめだーってなりそうなとき、拾っていってくれる。 優しさに救われています。	キャリア形成について聞いてみたい。どういうふうにキャリアをつくってきたのか。	このままでまずかったら言って下さい。	同上。	大学の研究と、つくりかた研究所の研究はどう違いますか？　どっちが楽しいですか？	建築の話、もっといろいろ聞きたいです。	特にないです。
主任研究員へ	なんかやりたいことありませんか？	小澤さんとピューロランドにいきたい。	ゆっくりでいいんですけど、色々話していきたい。	ベテランとあんまり仲がよくない、みんもそうだし、ベテランもあんまり研究所に興味が無い。なんで研究所に来たの？って聞きたい。	もうちょっと巻き込めたら良いんですけど、何か一緒にしましょう！	もっと一緒にやりたいですね。まだ絡めてないけど。	私たちを見てどう思ってるんだろう？　問々としている若手研究員をどう見てどう思うんだろう。自分が若いときと比べてどうなのか？	何かやりたいことありますか？　個々には、話したいことといろいろあります。	特にないです。
仲間意識	僕はある、僕にはあると思いますけど。	部分的にはあると思うけど、ないと思う。 必ずしも、必要でないと思う。	仲間って感じじゃないかも。仲間じゃなくても、色んな物をつくっていけそう。	ないんじゃない？仲間意識がなにかわからない。		ないと思う！　仲間ってなんですかね。「俺達仲間だよな」みたいな感じじゃなくて、一人一人すってしてる感じ。		あるんじゃないですかね。	ないと思います。それを感じたことがない、一歩引いた、ドライでもないが湿っているわけではない距離感。
使命感	自分の経験になる、次に繋がるというモチベーションはあります。	状況から問題を見出してやっている、いまのつくりかた研究所に、使命みたいなものはない。だけど、東京文化発信プロジェクト室の事業をやっている、ということに対して、記録したいという使命感はもっていないといけないと思っている。	ある。自発的に参加している気持ちはあるので、ここでなにができるのか考えながら、活動していきたい。それが使命感なのかはわからないけど。		実際舞台上と客席の関係を考えたいと思って入ったけど、いつかはやりたい。 まだ踏み出せてない。	持たなきゃいけないとは思う。研究室の紹介の原稿を書いた時に、確さんに「学生ノリが抜けない」って言われて、ああそこはおっきいよな、難しいよなって。そこは絶対に脱さなきゃいけないとは思う。	やらなきゃいけないことはある。	使命感なきゃって使命感があります。 ありすぎると狂っている感じになって嫌だけど、ちょっとはあるべきだと思う。	事務処理をしなきゃという使命感はあります。しないと回らなくなるかもという感じです。使命じゃないかそれはすいません。大きい枠組みで言えばないです。
共通の認識	漠然とはあるけれど、漠然としている。	みんなの嗅覚は似ている。タイプや問題意識は違うけど。組織、チームに関しての、違うものを探そうとしている。 応募することにもハードルがあったと思う。その時点で、なにか共通するものが、あると思う。	どうやらなさそう。「つくりかた研究所の研究員」という認識は、違う言葉に置き換えられない。いま。	ないと思う。それをつくろうとしてこなかったのが研究所でしょう？　物事の共有、同じ体験は事実としてはつくってきたけど、それは研究所の実体を探す、共通しているものを探るリサーチだったわけで。	嫌いな人とか似てそう。正直な人たち。自分の好きなことには体が動くけど、そうでないことには動けない。 おもしろい人たち。 色はちがうんだけど、色の濃淡は似てる。あとボーダーに立つのがうまい。	あんのかな…難しいな。ぼんやりとはあると思う。	わかりません。	あると思います。そういうものをつくるのを「つくりかたの共有」の目的にしていました。開室日になにか話すとか、「お化け教室」とかも、そういった何かをつくる手立てにはなっていて。
特別質問	《面白いものをつくるために必要なものは？》 くだらないことを言い合える友達、くだらない友達（笑） すごくリラックスできる雰囲気になってなんでもやっていい気持ちになる。かつ行動力もあって。一人よりも多少考えも整理されるし。 《面白いものとは？》 …面白いものは面白い、俺が面白いと思うから面白いだろみたいなところはありますが…僕にとっては判るものが面白い、判らなすぎるものはちょっとしんどい。"			《客者評判記読書会》 読みたかったんです。 読めたので、もう関心はあまりないです。 《事務局》 個別具体的に考えている問題というものがあるけれど、あまりそういう問題には関心がない。具体的なアクションはこの研究所でやる必然性はない。 具体的な何かに動き始めてしまったら面白く無い。研究所としては、何処にもむかない状態を維持したい。あるアーティストが舵を切っても、全体がその方向を向いてしまっては面白く無い。 アートプロジェクトとして面白いと思うのは、東京都の事業として隙間のことを考えることができるということだと思っているので。私はそういうひとたちを見ていたら楽しい。うだうだ考えるのが好きなんですよ。考えることができるのは、ここぐらいしかない。企業にはないでしょう？　あいつのプレゼンはド下手だけどなんか味があるなあとか考えている時間はない。声が大きくて説得力のあるプレゼンが絶対いいのだから。	ポリアモリーがおもしろい。 文化人類学、特殊な民族を調べていると思っていたけど、なにか新しく組み合わさってできたもの、現代民族っているんだな。 論文にすると取りこぼれてしまうもの、台詞じゃないと表せないことってある。文字にはできないものを、表すことができる方法を考えるって面白いと思った。 私が楽しければいいのと、実際に調査もしている深海さんが伝えたいものが伝わるように。 《人生ゲームになるまで》 ポリアモリーを展示でどう置くか。はじめは短い実演のつもりだった。関係性が変わることを活かして、原子記号みたいに遊んでいくのは？→人生ゲーム 《ポリアモリーでおもしろいこと》 固定を目指さない。流動的。ふつう、固定されたものを目指そうとしてしまう。結婚とか。大人になって知った、ずっと友達とかない、常に流動的という状態を実践しているのがポリアモリーの人たち。 《出版社から劇作家に転身》 劇団って、旗挙げるんだ？！　お金とっていいんだ！ 自分たちで全部やるってすごいと思った。 現代詩の出版社に勤めていた影響もあって、詩っぽいことも書いていいんだと思ってやっていたら、劇作家になった。のら猫みたい。 《エスノドラマの難しいところ》 リサーチして、借り物として出しても面白くない。人生ゲームでもそれは同じ。 《どうしたら面白いものがつくれるか？》 本当に思ってないこと書くと面白くない。 よくない癖かもしれないけど、後ろに作家を探しはじめてしまう。 《研究員がお互いのことを知らないことに関して》 確さんが選んだから、つくるのは面白いだろうと、信頼している。	《客者評判記読書会》 トイレってすごくプライベートな空間だけど、駅のホームや公園などパブリックなスペースに設置されたり、と思ったら家にあったり、面白い空間。そのトイレという環境と、音の関係って、贅沢に考えることが出来ると思った。 流水音ってすごいなって、いま思っているところ。 国広さんが音つくってくれたり、南さんが場所取りをしてくれたり、人に関わってもらえてすごく嬉しい。助かっている。	《つなぎかたの研究会》 企画が立ち上がる、作品ができる何かが生じる時、ばらばらにあるもの、人やものがつなげられている、つながりが生まれてる。ドラマトゥルクとかディレクターとかの職能を、どうやったら方法として抽出できるのか。こういうふうにつないでるんだ、おれもやってみよってできるか検証したい。いろんな分野でつなぎかたに秀でた人を呼んで、その人がふだん働いてる現場に行って、どういう振る舞い、言葉遣いをしてるのかというところから学び取る、盗み取ることをしたい。 《関心の在処は？》 何か核となるものがある時に、それを担保してるものとか、そとっ側で動いてるものに関心がある。作家志望だったんだけど、あるダンスの現場に制作の補助として入って。ダンサーが突き詰めようとしてることと、弁当買ったり、掃除したり…雑りですることにあまりにギャップを感じた。でも、ダンサーの突き詰める行為は、そういう雑りのことがあるから成立する。そこを忘れるからいける領域も勿論あるけど。それを可能にさせる外縁が面白いと思う。 《アートマネジメントとは違う？》 そう聞かれた時に引っ掛かるものがあるのは、俺のやってることもアートだから、って思うから、かな。外側、雑縁のことを扱うのも、技術という意味でアートだと。	《今後やりたいことは？》 音姫の実用化。

	池田 剛介 Kosuke Ikeda	石原 航 Wataru Ishihara	今村 みゆき Miyuki Imamura	岩渕 貞哉 Sadaya Iwabuchi	木下 マリ Mari Kinoshita	熊切 晃紀子 Kikiko Kumagiri	竹 ともき Tomoki Take	
自己紹介／研究所への応募の動機❶	今思うと、何かを受けることに憧れがあって。	「アトレウス家の建て方」を読んで、そういう演劇のつくりかたが気になった。	学生の頃に演劇をやっていまして、働き出したらゆっくり演劇をやる時間はないなと思いまして、さてどうしようと、微妙に演劇に未練があって、そのへんの関わり方をさぐれたらと思い応募しました。	大学の学部の時に長島さんの授業を受けていました。長島さんの考え方というのが独特じゃないですか。面白い、それを知りたいと思った。	ポリアモリーを研究しています。	アートとか全般的に狭いところでやってるから、もっと開いていったら良いんじゃないかと。 世の中に存在しているアートプロジェクトに関してとにかく疑問をもっている。地域アートプロジェクトって地域があるから成り立っているのに、やられている地域のことを無視してるものが良いのか。	最初、スタッフとして一緒にやりませんか？と言われたので。	べつに自分がアートできなことをやっているわけではなくて、 大学で中野さんの授業を受けて。 募集HPに、めっちゃ楽しいことしようぜ！って感じで書いてあったから。楽しいこと好き。	
研究所への応募の動機❷	学校でずれ違った長島先生と好きな劇団ナカフラの人がいることから。メンバーが気になった。		サラリーで働くと基本的にルーチンワークになるじゃないですか、明日明後日、次の一週間にすることが分かっている。そういう状態から半歩足を踏み出しておきたいと考えました。世の中の仕事というのはあまりにもルーチンワークだと日々感じることがあります。	アトレウス家の演劇が自分にとって、すごく衝撃的な体験だったので。最初野外演劇をやるという話だったので、アトレウスに繋がる何かを考えることができたらと思って。	実験をやっている人たち、それを見るのが好きで、募集のHPを見たとき、この人たちは実験が好きそうと感じ取った。実際に入ってみて、本当みんな実験好き。あと、好きなことしかできない、好きなことには本当に力を発揮するなぁという感じ。	地域を読み取ってつなぐことを。 開く場になればいいはずなのに、単独で存在してしまっている。「つくりかた」というか、「開き方」を考えたい。若い人だけでいいのか？って疑問もある。いまだに答えはでてないけど。	確さんの話だと、研究員とベテランで一緒に何かをつくりあげるとき、研究員とベテランがなにかのつくりかたを考えるんだけど、間をつなぐ人が必要だと言われて。		
研究所への応募の動機❸	応募のバナーが、野外で劇をやってるものだった。どうやっているんだろう？ 知らないことは、知りたい。			面接のときに、「アトレウス家の建て方」を渡されてそれを読んで、これは面白い！とさらに関心を持つ。	実際は、研究員とスタッフの境目はほとんどなかったように思う。この４月に入ってからは、スタッフという括りはなくなったように感じる。			
参加している研究室など	さばきかた研究室、事務局＝報告会の司会＝何か仕事したかった。	うごきかた研究室	エスノドラマ研究室、寺山修司研究室	団地研究室、「植物と演劇を考える」、エスノドラマ研究室、客者評判記読書会、居場所研究室、「だれかのみたゆめ」の制作	エスノドラマ研究室の代表？　代表というのはあるのかな？	土地の記憶研究室、事務局、ちゃちゃいれ係	研究室ではなく、 まだ企画だけれども「客者評判記読書会」という企画をやっている。	土地の記憶研究室	
研究室などでの活動／考えていること	《エスノドラマ研究室》 いちワークショップ参加者として、特にそれ以上ではないです。 《寺山修司研究室》 「アートプロジェクト」って、言葉だけでふわふわしているという印象があるんですけど、現在行われている「アートプロジェクト」への違和感の根を探りたいと思い、歴史を参照しようと。 短歌論から読み始めたんですけど、そこがやはり面白いと思っています。読書メモをつけています。 （僕は）演劇について過大な夢を持っているんです。		《エスノドラマ研究室》 民族誌を上演するという形で、普通の演劇のつくりかたとは違う観点から捉えられると思って。 《客者評判記》 観客が何なのか考えるのにすごくいい。面白いのは、いま観客のあり方が変わってきて新しい観客論を考えようという動きがあったりするけれど、そういった観点を江戸の人が既に持っていたんだということ。 《団地研究室》 団地で単に演劇をやるのは違うと思い始めていて、団地の中にはそれぞれの生活があるから、それに演劇を無理に持ってきても絶対なにか違うと思って、ではどうするというところで止まっている。 《「植物と演劇を考える」》 演劇とか舞踏とかで、身体を植物として捉えるとかそういうことに興味があるんですよ。 《「だれかのみたゆめ」の制作》 ベテラン含め去年のだらだら感がなくなってきているとは感じる。いいとか悪いとかではないのだと思うけれど。	《エスノドラマ研究室》 民俗誌を演劇でやってみたり、見てみたりすること。エスノグラフィーには書けないことがある。研究所には自分にはできないことをできる人たちがいて、それはとてもラッキー。 《ワークショップ》 ワークショップをとおして、見ることだけでなく、やることの可能性に気付いた。　ワークショップのホスト役の大変さを感じた。自分がフィールドワークでポリアモリーのミーティングに行っていたときとは、全然違う経験ができた。 《これからやりたいこと》 1.　ちがうテーマ、ちがう「他者」をテーマにワークショップを継続させたい。私も知らない「他者」についてやってみたい。 2.　ゲームでなにかを伝えることができる。他者の日常を理解するのにゲームがどれくらい使えるか。参与と他者理解の関係。	《エスノドラマ研究室》 民俗誌を演劇でやってみたり、見てみたりすると。エスノグラフィーには書けないことがある。研究所には自分にはできないことをできる人たちがいて、それはとてもラッキー。 《ワークショップ》 ワークショップをとおして、見ることだけでなく、やることの可能性に気付いた。　ワークショップのホスト役の大変さを感じた。自分がフィールドワークでポリアモリーのミーティングに行っていたときとは、全然違う経験ができた。 《これからやりたいこと》 1.　ちがうテーマ、ちがう「他者」をテーマにワークショップを継続させたい。私も知らない「他者」についてやってみたい。 2.　ゲームでなにかを伝えることができる。他者の日常を理解するのにゲームがどれくらい使えるか。参与と他者理解の関係。	地域にどう還元するか。だから土地の記憶を選んだってわけではないけども。 タイムトラベラー、記憶の門番を知るきっかけをつくりたいのかもしれない。 幹事が苦手なのに、新年会をやってみたり。ちゃちゃいれないと進まないというのも事実かも。事務局の体制をつくりながらの、幹の調整をしているつもり。基本黒子でいたい。旗を振ってみる。遅刻していることを反省。 本業がほかにあるからだけど、とはいえひどいと思う。	最近のアートプロジェクトとか演劇とかのお客さん、今までとは違う、一方通行ではないお客さんをどう表現するかも考えている。	これから東京に住むことを見据えて、東京を調査したかった。東京は仮住まいの場所という認識。いざとなったら帰るところがあるから、東京は故郷にはならない場所だと思ってた。 東京で住むって、めっちゃこわい、ギャンブルみたいだと思ってた。	
わからないこと			結構わからないですね。他の人が何をしているのか。	これからどうなっていくんでしょう。一応来年で終わるということになっているけど。全部やりたいんですよ。 ３年が終わって、みんなさよならってなるのは嫌だなと。			３年で終わるって聞いてはいるんですけど、今の形ができあがったら、研究所はどうなっていくのかな。 1つ1つの研究室の自治ができあがって、研究所ができあがったら、どうなるのかな。		
もの申したいこと			もっと自由に色々やったらいいのになという。		ゆるいのは良いけれども、ゆるさのなかの秩序は 大切にしなければいけない。基本で大事。基本で言葉は 嫌いだけれど。交通費の申請とか。最低限のことをやってから、好きなことを。 守りをしておかないと、攻められない。	まえに、ミーティングが3日連続であったときがあって、あれはびっくりした。 やりすぎでしょ、と（笑） 稽古じゃないのに つくることは、大変だけど楽しい。 自治ともかかわるけど、どこまで自分がすすめて、どこまではみんなの意見を聞いて、それも手探り。新しい自分を発見しているところはある。悩んでいるとき、相談できる人がいるってのは大事。	みんなの素性を知りたい。 どこに住んでるかとか、 趣味とか、ぜんぜんわからない。 わからないのも面白いけど。知ってどうなるのかわからないけど、 でも知ってできることもあるかも。 誰も聞こうとしない。 検索にひっかかる人もいるけど、ふつうの大学生も。そのアンバランスさが良いのかな。	
創設者へ			確さんに双子が生まれて、男の子なんですけど、どんな名前つけますかね？		確さんは何のつくりかたを研究したいんですか？		なんで私だったんだろう？		
所長へ			そのコーヒーはブラックですか？→紅茶です		相談しやすい感じなので、そのままで♡相談したことないですけど。	なにをつくりたいんでしょう？　つくりかたのつくりかたが見えたときに、その先に見えているものはあるのでしょうか。		あまりお話したことないので、気になる人ですね〜。 お話しませんか。	
主任研究員へ			どうやって生活しているのか、暮らし向きが気になる。子供いるのかとか、欲しいのかとか、老後はどんなところに住みたいのかとか。	何やってるのか知りたい。研究所ではたぶんそんなに何かやってないと思う。外でなにかやってるのか知りたい。	ものをつくっていて、一番楽しいのはどんな時ですか？	エスドラのワークショップとか遊びに来て欲しい。	とくになし		あまりお会いしないから。。お元気かな？
仲間意識			すれちがったら嬉しい。	最後のつなぎくらいにはあると思うけど。	なくはないんじゃないでしょうか。	今はあるかも。 つくりかた研究所の一員という認識は強くなってきた。	ある。 集団が苦手だから、とてもいい。民族意識みたいなの感じる。	あると思います。	ある。でも幹事みたいな人がいないので、 仲間意識を共有しあうことはしないから、 みんなこっそり友達って感じ。
使命感			ないといったらウソになるけど、せっかくだからという感じではある。せっかく研究員だから。	あるとしたらなくしていきたい。	使命感とはちがうけど、自分の好きなことに人を巻き込んでいるから頑張る。	ないと思う。 やろうとしてるものがあるので、それができたらいいと思う。 やるだけでなくて、還元も。正しい還元の仕方はないけど。	とくにない。	なにか企画をやるってなると、自分しかいないから、そういうときは感じる。	
共通の認識			相手を知らないからわからないな。でもみんな、優しくて、好きです。	ないと思う。自分が共通の認識だと思ってることがないから。	あえて、ないと言っておきます。ちょっと分かりません。	ゆるゆるっとした感じが好きなところとか。	既存のものに、もの申すくらいはあるんじゃないかな。	バラバラの研究室でもちょっと考えてることかぶってたり、それぞれの話で面白いなと思うことは多いので、 共通の観点みたいなものはあるんじゃないかと。	あんまりないんじゃないかな。だからこそ、 研究室がぼんぼん出来上がったのでは？	
特別質問					《寺山研（準備中）をひとりでやっているのはなぜ？》 しばらく一人で勝手にやっています。 《どのようなつくりかたを考えたい？》 関わる人が気持ちよく、それぞれのスタンスでやってくれるような状況をつくりたいですね。 人が集まる時、大概なにかしらの目的を持って集まると思うんですよ。でも、組織の維持に注がれるエネルギーがウェイトを占めて、それが目的化していってしまうことがある。 すると途中で「あれ、何やってたんだっけ？」となる。それはなんだろうという疑問があります。		《大学での研究と、つくりかた研究所の研究の違い》 2つをつないでいるのは、実験。実験という意味では、一緒。ポリアモリーの人たちというのは、自分の体をもって実験している意識がある。既存の恋愛ではない。それを体をつかって開発している。既存のやりかたではなく、やり方から考えるという意味では共通。 《つくると研究》 過程が、辛くても楽しくなきゃだめ。期限がある中で「つくる」のは研究とちがう。そこの状態にもっていくために、本番の1週間前とかすごいことになってる。（笑）そこに自分をもっていくとか今まで経験したことない。 《おもしろいものつくるには》 日常をおもしろがれるかどうかに関係してきそう…。	２年目なので、まだやってることや関心はバラバラだけれども既存の形に疑問を持っているから、つくりかたに惹かれたのでは。 いまだに指針というものはないけど、指針がないながらに、つくりかたを考えてる。ビジョンはないけど、ふわふわした光が見えているような。ロマンチック〜♪	３月に創設者に確認されたけど、わからないと答えて、 やってみたらできた。 自分が興味をもって話したいことを一緒に話せる人って、今の環境だととても限られているので、つくりかた研究所は貴重な場。	